

人と人とのつながりが育む 住みよいまち・ささはら

平成 28 年 2 月
笹原小学校地区 地域ビジョン



目 次

はじめに	1
1. 笹原小学校区の現況	2
1-1. 地域の概要	2
1-2. 人口・世帯数等の推移	3
1-3. 地域活動の現状	7
1-4. まちづくりの現状と課題	9
2. 笹原小学校区の地域づくりのめざす姿	12
3. 活動方針と行動計画	13
3-1. 活動方針と行動計画の概要	13
3-2. テーマごとの活動方針と行動計画	14
1. 健康・福祉	14
2. 防災	17
3. 地域環境・美化・緑化	19
4. 防犯・交通安全	22
5. 地域の活性化・交流	24
6. 子どもの健全育成	26
7. 地域拠点	28
8. 地域自治の強化(広報・財源・人材・組織)	29
テーマ別活動方針と行動計画 一覧	31
4. 今後の展望	33
5. 地域ビジョン策定の経過	34

はじめに

平成 27 年度、当協議会が市から地域コミュニティ基盤強化の試行団体として認定され、私たちの住んでいる笹原をこれまで以上に住みやすいまち、住んでいてよかったまちとなるように、これからのまちづくりを示す“地域ビジョン”を策定しました。

地域ビジョンの策定にあたり、自治会長、専門部会、小中学校、幼稚園の関係者により構成された地域ビジョン委員会を立ち上げ、様々な角度から地域の将来のあり方について検討をすると同時に、地域に住んでいる全ての住民の方々を対象にした、アンケート調査、3 回の意見交換会、まちあるきを実施して、幅広い意見を集約しました。

その結果、笹原には、笹原公園があり、自然豊かで静かな環境の中、スーパー等の商業施設、医療機関、学校等が充実しており、地域の活動がしっかりして住みやすいという声を多くいただきました。一方で、今後の課題としては、地域の自然と伝統文化の継承、人間関係の希薄化等があげられています。さらに、地域活動に関する関心の低下や高齢化等により、各地域での人材の掘り起こしが重要であることが課題として認識されました。

今後の活動では、ひとり暮らしの高齢者の方々への見守り、子どもたちの通学時の見守り活動の強化等、安全・安心のまちづくり、さらには緊急時、災害時に備えた体制づくりの整備等、地域活動に期待される役割は大きくなってきており、組織力の強化に取り組むことが急務であり、地域が一丸となってこれらの活動に取り組んでいきます。

この笹原の地域ビジョンには、健康福祉、防犯、防災、子どもの健全育成、地域環境、人材の確保等、各項目の課題に取り組むべく具体的な行動計画が書かれています。すべての住民の皆様にご理解、ご支援をいただき、行動計画の実現に向けた取り組みを皆様の参画により進めていくことが必要と考えますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

コミュニティ笹原協議会
会長 宮内 正次

1. 笹原小学校区の現況

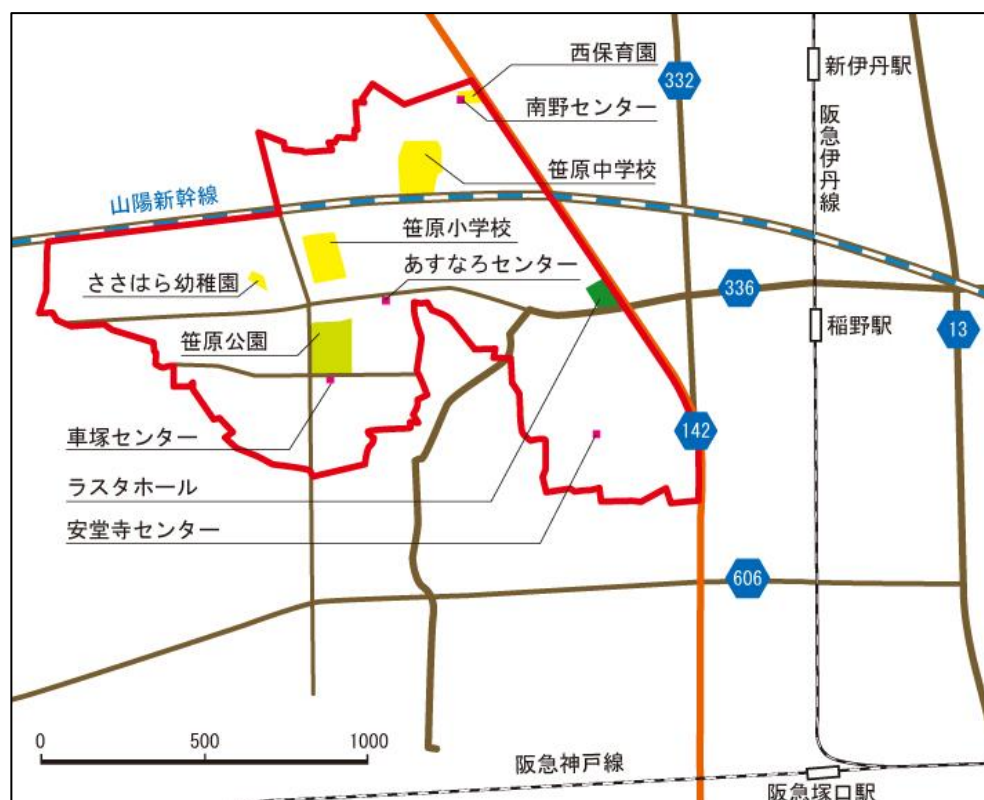
1-1. 地域の概要

笹原小学校区は、伊丹市の南西部に位置し、安堂寺全域、車塚全域、野間全域、南野2丁目から6丁目、南野北全域からなります。

「笹原」という地名は、紫式部の娘、大貳三位が「ありま山 みの笹原 風吹けば いでそよ人を 忘れやはする」と詠んだ歌枕「あな（猪名）の笹原」に由来しており、平安時代に「野間荘」として登場する等、「野間」「南野」等の集落は古くから存在していました。大空寺、了福寺、健速神社、南野神社等行基ゆかりの社寺、難波（大阪）から有馬を結んだ有馬道、南野地域に古くから伝わる兵庫県無形民俗文化財「せっしゅうひょうごくどく摂州兵庫功德盆踊（むぎわら音頭）」等、まちなかには様々な時代の面影が残されています。

戦後までは見渡す限り田畑が広がっていましたが、昭和30年代から徐々に宅地開発が進み、現在は戸建て住宅を中心に住宅地が広がっています。

平成18年に整備された地域の中心部に「笹原公園」や、生涯学習施設、図書館、デイサービス、フィットネス施設が入った複合施設「ラスタホール」等、子どもからお年寄りまであらゆる世代にとって生活しやすい環境が整っています。また、校区内には安堂寺センター、あすなろセンター、南野センター、車塚センターの4つの共同利用施設があり、サロン、集会、サークル活動等に使われています。



▲健速神社



▲笹原公園



▲ラスタホール

1-2. 人口・世帯数等の推移

■笹原小学校区の人口、世帯数の推移

笹原小学校区は、17,417 人、6,612 世帯が暮らしており（平成 22 年国勢調査）、伊丹市 17 小学校区中では伊丹小学校区に次いで 2 番目に多く、市全体の人口の約 9%を占めています。

平成 12 年から 17 年にかけて人口が 2.4%増、世帯数が 5.5%増、平成 17 年から 22 年にかけて人口が 3.1%増、世帯数が 2.3%増と、伊丹市全域の動向と同様で緩やかな増加傾向にあります。

伊丹市全域の人口の将来推計によると、平成 37 年までは緩やかに増加し、その後緩やかな減少に転じると予想されています。

町名	平成 12 年		平成 17 年		平成 22 年		平成 27 年	
	人口	世帯数	人口 (H17/H12)	世帯数 (H17/H12)	人口 (H22/H17)	世帯数 (H22/H17)	人口	世帯数
安堂寺町	4,549	1,807	4,645 (102.1%)	1,897 (105.0%)	4,612 (99.3%)	1,888 (99.5%)	4,485	1,867
車塚	948	336	1,477 (155.8%)	544 (161.9%)	1,636 (110.8%)	593 (109.0%)	1,830	800
南野 (参考値)	3,315	1,142	3,349 (101.0%)	1,199 (105.0%)	3,747 (111.9%)	1,221 (101.8%)	3,184	1,236
南野北 (参考値)	2,656	996	2,704 (101.8%)	1,022 (102.6%)	2,737 (101.2%)	1,055 (103.2%)	2,711	1,072
野間	5,033	1,847	4,725 (93.9%)	1,801 (97.5%)	4,685 (99.2%)	1,855 (103.0%)	4,624	1,872
笹原 小学校区	16,501	6,128	16,900 (102.4%)	6,463 (105.5%)	17,417 (103.1%)	6,612 (102.3%)	16,834	6,849
市全域	192,159	70,846	192,250 (100.0%)	72,983 (103.0%)	196,127 (102.0%)	77,263 (105.9%)	197,376	79,536

※ 南野は 2～6 丁目が笹原小学校区に該当する

※ 平成 12 年、17 年時点の旧住所表記で南野字池ノ下、出口、中曽根、西向、東浦、広田、溝口、山道、野間字熊野、ハツレ松が、現在の住所表記で南野北、南野、ならびにその他の町丁に該当しているが、すべて南野北に計上する

【出典：平成 12 年、17 年、22 年は国勢調査より集計、平成 27 年は推計人口（4 月 1 日現在）を基にまちづくり推進課にて算出した数値】

■年齢層別人口

平成 22 年国勢調査によると、65 歳以上の割合は笹原小学校区で 22.8%と、市全域の 20.0%より高くなっています。地域別では、車塚の 65 歳以上の割合が非常に高く、野間の割合が低くなっています。

(単位：人)

町名	0-14 歳		15-64 歳		65 歳以上		計
安堂寺町	565	(12.3%)	2,900	(62.9%)	1,147	(24.9%)	4,612
車塚	289	(17.7%)	873	(53.4%)	473	(28.9%)	1,635
南野	534	(16.4%)	1,982	(60.7%)	749	(22.9%)	3,265
南野北	429	(15.7%)	1,700	(62.1%)	607	(22.2%)	2,736
野間	756	(16.1%)	3,043	(65.0%)	884	(18.9%)	4,683
笹原小学校区	2,573	(15.2%)	10,498	(62.0%)	3,860	(22.8%)	16,931
市全域	29,644	(15.1%)	127,087	(64.8%)	39,275	(20.0%)	196,006

※ 南野は 2～6 丁目が笹原小学校区に該当する

※ 年齢不詳人口は除く

※ 構成比は小数点第 2 位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100 とはならない

【出典：平成 22 年国勢調査より集計】

伊丹市高齢者実態調査によると、笹原小学校区の高齢化率は平成 23 年度の 23.2%から平成 27 年度の 28.1%まで毎年約 1%増加しており、伊丹市全域より高齢化の速度が早くなっています。

一方、笹原小学校区における 65 歳以上人口に占めるひとり暮らしの割合、要援護者の割合は、伊丹市全域に比べて低くなっていますが、それぞれの人数は高齢者数の増加に伴い増えつつあります。

	年度 (平成)	65 歳以上 の人数	高齢化率	ひとり暮らし		要援護者	
				65 歳以上 の人数	65 歳以上人口 に占める割合	65 歳以上 の人数	65 歳以上人口 に占める割合
笹原小 学校区	23 年度	3,937	23.2%	311	7.9%	20	0.5%
	24 年度	4,104	24.2%	399	9.7%	31	0.8%
	25 年度	4,309	25.5%	408	9.5%	35	0.8%
	26 年度	4,539	26.9%	400	8.8%	44	1.0%
	27 年度	4,734	28.1%	436	9.2%	46	1.0%
市全域	23 年度	39,513	20.1%	4,050	10.2%	583	1.5%
	24 年度	41,200	20.9%	5,308	12.9%	703	1.7%
	25 年度	43,182	21.8%	5,706	13.2%	803	1.9%
	26 年度	45,243	22.9%	6,050	13.4%	973	2.1%
	27 年度	46,876	23.7%	6,535	14.0%	938	2.0%

【出典：伊丹市高齢者実態調査】

■住宅の建て方別世帯数の推移

平成 22 年国勢調査によると、笹原小学校区全体で戸建て住宅に住む世帯が 60.3%と、伊丹市全域の 41.5%に比べて多く、安堂寺町では 79.1%、南野では 67.3%を占めています。車塚では、共同住宅（アパートやマンション）が平成 12 年から 17 年にかけて急増しており、平成 22 年には 64.6%を占めています。

町名	平成 12 年				平成 17 年				平成 22 年			
	総数	一戸建	長屋建	共同住宅	総数	一戸建	長屋建	共同住宅	総数	一戸建	長屋建	共同住宅
安堂寺町	1,457	1,192 (81.8%)	22 (1.5%)	238 (16.3%)	1,562	1,261 (80.7%)	30 (1.9%)	271 (17.3%)	1,592	1,260 (79.1%)	30 (1.9%)	300 (18.8%)
車塚	329	173 (52.6%)	13 (4.0%)	143 (43.5%)	536	178 (33.2%)	13 (2.4%)	344 (64.2%)	542	186 (34.3%)	5 (0.9%)	350 (64.6%)
南野	1,123	716 (63.8%)	120 (10.7%)	281 (25.0%)	1,165	742 (63.7%)	109 (9.4%)	313 (26.9%)	1,353	910 (67.3%)	86 (6.4%)	351 (25.9%)
南野北	959	516 (53.8%)	38 (4.0%)	398 (41.5%)	967	562 (58.1%)	56 (5.8%)	346 (35.8%)	1,025	620 (60.5%)	32 (3.1%)	369 (36.0%)
野間	1,724	729 (42.3%)	137 (7.9%)	846 (49.1%)	1,774	748 (42.2%)	150 (8.5%)	868 (48.9%)	1,782	816 (45.8%)	104 (5.8%)	857 (48.1%)
笹原小学校区	5,592	3,329 (59.5%)	330 (5.9%)	1,907 (34.1%)	6,004	3,493 (58.2%)	358 (6.0%)	2,143 (35.7%)	6,294	3,794 (60.3%)	257 (4.1%)	2,228 (35.4%)
市全域	67,705	26,456 (39.1%)	5,473 (8.1%)	35,530 (52.5%)	70,554	28,705 (40.7%)	4,838 (6.9%)	36,841 (52.2%)	75,020	31,114 (41.5%)	4,013 (5.3%)	39,643 (52.8%)

※ 総数には、「一戸建」「長屋建」「共同住宅」のほか、その他の住宅（事務所や工場の一部を併用住宅にしているというようなもの、寄宿舍、独身寮、ホテル、病院等の住宅以外の建物）が含まれる

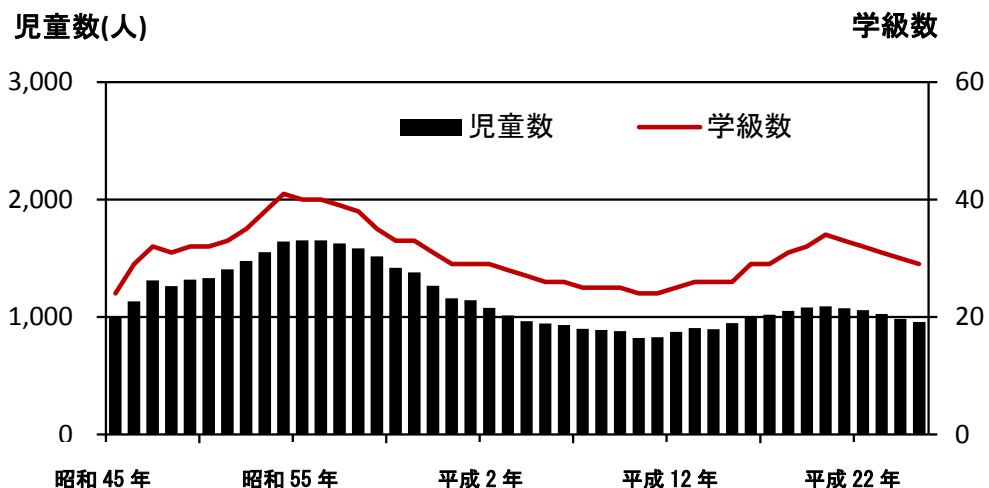
※ 南野は 2～6 丁目が笹原小学校区に該当する

※ 平成 12 年、17 年時点の旧住所表記で南野字池ノ下、出口、中曽根、西向、東浦、広田、溝口、山道、野間字熊野、ハツレ松が、現在の住所表記で南野北、南野、ならびにその他の町丁に該当しているが、すべて南野北としてその合計値を示す

【出典：平成 12 年、17 年、22 年は国勢調査より集計】

■小学校の児童数・学級数の推移

笹原小学校では、ピーク時の昭和 56 年には 1,653 人の児童がいましたが、平成 25 年には 957 人と、ピーク時に比べ 42%減少しています。平成 12 年以降は緩やかな増加傾向にありましたが、平成 21 年から減少に転じています。



■自治会加入率

笹原小学校区の自治会加入率は、全世帯数の約 7 割となっています。

	平成 24 年		平成 25 年		平成 26 年		平成 27 年	
	世帯数	加入戸数	世帯数	加入戸数	世帯数	加入戸数	世帯数	加入戸数
笹原小学校区	6,693	4,577	6,689	4,682	6,726	4,645	6,849	4,631
	65.7%		70.0%		69.1%		67.6%	
市全域	78,205	54,034	78,255	53,902	78,763	53,207	79,536	52,718
	69.1%		68.9%		67.6%		66.3%	

※ 自治会加入率（各行 2 段目、％）＝自治会が調査した加入戸数（4 月 1 日現在）／推計人口（4 月 1 日現在）を基にまちづくり推進課にて算出した世帯数

■災害

笹原小学校区内は、集中豪雨や洪水に伴う浸水が想定されている区域は少なく、土砂災害警戒区域に指定されている箇所がない、比較的安全な地域です。

災害が起きた際の指定避難所として、笹原中学校、笹原小学校、ささはら幼稚園、西保育所、安堂寺センター、南野センター、車塚センター、あすなろセンターが指定されており、指定緊急避難場所として、笹原公園（防災公園）が指定されています。

1-3. 地域活動の現状

(1) コミュニティ笹原協議会

コミュニティ笹原協議会は、住民相互の交流と住民主体の文化、学習、健康増進、福祉活動を促進するとともに、良好な環境づくり、防災・防犯体制の確立、次世代育成によるコミュニティ活性化のための活動を実施し、住民が連帯してコミュニティづくりに寄与することをめざしています。

■各専門部会の活動

総務部会

コミュニティ全体事業の企画を行っています。

また、安全・安心な住環境づくりのため、関係機関と連携し、地域住民の自治意識を高めると共に身近なところから防災・防犯活動を実施しています。

主な活動

- 年末自主警戒・防犯パトロール
- 全体事業の企画 等

青少年部会

青少年の健全育成をめざし、あいさつ運動や見守り活動を展開し、安心して子育てできるまちづくりを進めています。また、「早寝、早起き、朝ごはん」をスローガンに健やかな家庭づくりを推進しています。

主な活動

- 夏季・冬季パトロール
- こままわし大会 等

福祉部会

「自治と福祉の原点は“向こう三軒両隣”の人間関係にあり」をモットーとし、全ての人が住み続けたいようなまちづくりをめざして、慌てず焦らず地道に活動を進めています。

主な活動

- ふれあいバスの旅
- ふれあい新年交流会 等

生活環境部会

地域住民が健康で明るく、安心して生活するために生活環境の美化推進や緑化運動のほか、「ごみ分別収集・減量化」運動を展開するとともに研修会等を開催し、地域住民の連帯感を高める活動を行っています。

主な活動

- 笹原まつりごみ箱設置
- ごみ減量・分別講習会
- 浄水場・リサイクルセンター視察 等

高齢者部会

地域の子どもとのふれあい交流を図り、豊かな知識や経験を生かし、心のふれあうまちづくりを進めています。さらに、子どもたちが健やかでたくましい身体、自らの行動を正しく律する強い心、豊かな感性、思いやりの心等を育むことができるように支援しています。

主な活動

- 保育園児との交流会
- 幼稚園児との交流会
- 小学生との交流会 等

広報部会

コミュニティ笹原協議会の活動を発信する広報紙「広報 笹原」を発行しています。

部会を問わない取り組み

- 地域コミュニティ基盤強化事業
- 笹原まつり ○自主防災・防犯活動推進
- もちつき大会 ○健康講座
- 笹原公園の維持管理運営協力
- 地域福祉ネット会議の事業協力
- 「スポーツクラブ 21 ささはら」の活動協力
- その他関係団体への協力等

(2) 校区内の関係団体・委員

自治会	・ 夏祭り、秋祭り、もちつき大会、バス旅行等のふれあい交流事業、文書回覧や掲示板による情報提供、地域清掃や公園の管理等の環境美化活動を行っています。 【19の自治会】 南野、第一中曽根、笹北、山道団地、長沢、野間、東安堂寺、西安堂寺、阪急住宅、矢倉町、畠中、中曽根、佐々原、野間東向、車塚北、車塚南、野間南、あぜりあサンハイツ、レピア・アーバン
民生委員 児童委員	・ 関係機関と連携し、生活上の相談（介護の不安、子育ての悩み、生活上の不安等）を行っています。
笹原小学校PTA	・ 「ふれあい広場」の実施、コミュニティ笹原協議会と共催するこままし大会、もちつき大会、献血等を開催。平成26年度より土曜学習を開始しました。
笹原中学校PTA	・ 先生方や少年補導委員の方と共に夜間パトロールを実施、すこやかネットSSS推進協議会にて講演会の企画、笹原まつりで模擬店の出店等、地域のつながりを深める事業を展開。平成26年度より土曜学習を開始しました。
すこやかネット SSS 推進協議会	・ 笹原中学校、笹原小学校、摂陽小学校、ささはら幼稚園、せつよう幼稚園、同PTAで構成。笹原まつり、摂陽夏祭り盆踊り大会への協力、3校合同同和研修会等、様々な活動を展開しています。
スポーツクラブ21 ささはら	・ 第2・4土曜日の午前中に各スポーツクラブの活動や、様々なニュースポーツを体験し、地域の方々との交流と体力アップを図っています。
老人会	・ 健康体操等の健康増進に関する事業、子どもや高齢者の見守り、清掃活動等の社会貢献活動を行っています。 【10の老人会】 笹北寿会、野間南ひまわり会、畠中にじの会、車塚ときわ会、車塚北きらく会、佐々原くれたけ会、長沢あすなろ会、いこいの会、西安堂寺たちばな会、第一中曽根明朗会、山道仲良し会
子ども会	・ 地域で子どもを育てるために様々な活動を行っています。 【8の子ども会】 南野、車塚南、笹北、野間西、佐々原、レピア・アーバン、東安堂寺、西安堂寺
少年補導委員	・ 地域の公園等を巡回し、青少年への「声かけ」や「見守り」、問題行為をしている少年への注意や助言をし、少年非行の未然防止に取り組んでいます。
保健衛生推進委員	・ ごみの分別方法・出し方、減量やリサイクルの推進、集団回収、環境美化等の推進のための指導、啓発活動を行っています。
笹原公園 運営委員会	・ 笹原公園の管理のほか、蝶観察会や笹原小学校3年生を対象とした環境体験学習等を実施しています。
笹原ボランティア センター(ささボラ)	・ 高齢者や障がい者のお困りごとを登録ボランティアの方々と解決しています。

1-4. まちづくりの現状と課題

まちづくりとして取り組むべき課題を、まちづくりアンケート、まちあるき、3回の意見交換会ならびに地域ビジョン委員会での議論を経て、以下の3点に整理しました。

1 住みよい環境と良好なコミュニティ活動の継続

笹原小学校区は、笹原公園をはじめ多くの緑地、公園、田畑、自然に囲まれ、静かな環境が保たれた地域です。こうした環境は、自治会や各活動団体等の清掃活動やごみの管理によって維持されています。また、歴史が感じられる社寺等が残され、兵庫県無形民俗文化財「せっしゅうひょうごくどく摂州兵庫功德盆踊（むぎわら音頭）」等の伝統文化も継承されています。

こうした住みよい環境と伝統文化を今後も維持、継承し、よりよい住環境をつくっていくためには、今後若い世代等にもこうした活動への理解と参画の促進、市や各団体間の連携、協働による取り組みが求められます。

2 「向こう三軒両隣」の関係づくり

高齢化やライフスタイルの変化によって、「向こう三軒両隣」と言われた日本のよき文化が薄らぎ、住民同士のつながりの希薄化や地域活動への関心の低下を感じている人が増えています。また、笹原小学校区の高齢化率は、伊丹市全域より高く、また高齢化の速度も早い状況にあります。ひとり暮らしの高齢者や要援護者の割合は市全域よりも低くなっていますが、それぞれの人数は増加傾向にあります。

今後ますます進行する高齢化に対応していくためにも、また、子どもを巻き込む犯罪や交通事故、災害への対応を進めていくうえでも、今後、「向こう三軒両隣」で日頃からの声かけ、助け合いができるような関係づくりが求められています。

3 地域活動の担い手・新たな住民の参画促進

笹原小学校区では、「笹原まつり」をはじめとして、様々な活動において、地域活動の担い手が減少、固定化しているという声が挙げられています。新たな活動のアイデアが挙げられたとしても、現在地域活動に関わっている方の負担増加につながるため、次の一歩が踏み出せない状況があります。

一方で、地域のお困りごとを助けるボランティア活動の仕組みとして「笹原ボランティアセンター（ささボラ）」等の取り組みがありますが、地域住民に十分に知られておらず、利用が伸び悩んでいます。また、意見交換会等では、「地域には子育て世代や若者がいないというわけではなく、地域活動への参加に結び付けられていないだけ」という意見もあります。

今後は地域に埋もれている人材の掘り起こしや、地域活動の周知、新たに地域活動に参加したいという方が気軽に参加できるような組織体制の整備等が課題となっています。

まちあるきで見つかった 地域の現状と課題

野間会館・健速神社

- ・11月に野間会館前でもちつきがある。
- ・1月1日に初詣、1月15日にどんと祭り、7月に夏まつり、10月に秋まつりがある。秋まつりのお神輿には30人前後の子どもが集まる。

野間会館・健速神社周辺

- ・道が狭く、防災面・防犯面が心配。救急車も入れない。

災害時

犯罪

祭り・行事

寺社・史跡

寺社・史跡

寺社・史跡

祭り・行事

祭り・行事

拠点・センター

大空寺

- ・村人の寄付で立て直された。
- ・立派な松がある。

芝田邸

- ・都市景観形成建築物。

楠原稲荷大明神周辺

- ・楠原稲荷大明神には伊丹で一番太い楠があり、PRできる。周辺にはかやぶき屋根のお宅がある。

野間公園

- ・野間盆踊りが開催される。

笹原公園

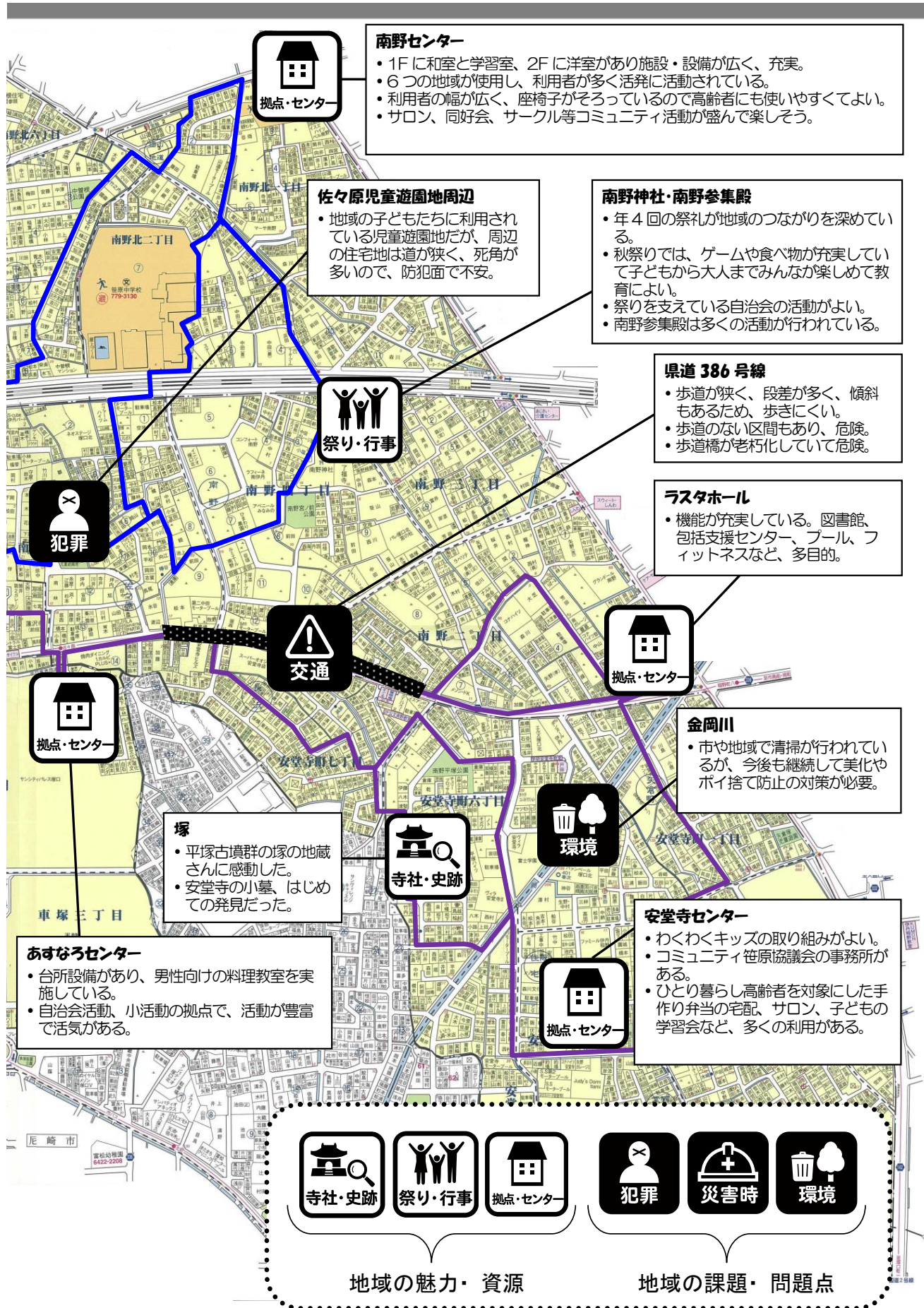
- ・グラウンドゴルフ、ボール遊びができる。
- ・健康遊具がある。
- ・ラジオ体操に150～200名が参加する。
- ・年に2回蝶の観察会がある。
- ・住民の憩いの場。
- ・防災公園なので災害時に必要なものが備蓄されている。
- ・管理部50名、みどり部50名の100名のボランティアで運営されている。

車塚センター

- ・自治会活動や、趣味、スポーツの活動が活発。
- ・サロンが開催されている。

0m 100m 200m





2. 笹原小学校区の地域づくりのめざす姿

笹原小学校区は、多くの世代の方の交流の場となっている笹原公園をはじめとする、緑地、公園が見られるとともに、田畑、自然が随所に残され、買い物、医療、子育て環境等、非常に住みやすい環境が保たれています。こうした環境は、自治会や様々な活動団体等による清掃等の活動が下支えとなっています。

これからも、安全・安心で住みよいまちであり続けるために、「向こう三軒両隣」のご近所づきあいから小学校区へと、人と人のつながりの輪を広げていくことが、高齢者の助け合いや、子どもの安全確保、犯罪の抑止、交通安全対策、災害に対する備え、にぎわいづくり等、あらゆる面で重要となります。

そこで、コミュニティ笹原協議会では、人と人のつながりに主眼を置き、子どもから高齢者まで幅広い世代にとってより住みよいまちであり続けていくことをめざします。

人と人のつながりが育む 住みよいまち・さはら



▲笹原公園をはじめとした緑豊かな住みよいまち



▲人と人のつながりの輪を広げていきます



▲高齢者同士や三世代の交流、
つながりを強めます



▲子どもや高齢者等、全ての世代にとって安全・安心な地域の実現
をめざします



3. 活動方針と行動計画

3-1. 活動方針と行動計画の概要

近年、高齢者世帯の増加や若年世帯のライフスタイルの変化等により地域住民同士のつながりが希薄になり、従来の地域活動では各世代間が抱える課題について情報の共有がしづらい状況があります。この現状を背景として、地域の課題を解決するため全住民を構成員とし、地域の課題をとりまとめ、行政と協働しながら地域の課題解決に取り組む新しい「地域組織」の設立が求められます。

住民の皆様にお聞きしたアンケートや意見交換会でもたびたび議論を重ねてきましたが、地域ビジョンを実現していくには、「向こう三軒両隣」の関係をつくり、地域自治の組織力そのものの強化（しくみ）とともに、それを支える住民の一体感、参画意識が欠かせません。住民間の交流、親睦を促進させ、笹原小学校区全域で一体感をもつことができるように、地域自治の活性化を図り（しかけ）、笹原公園や各共同利用施設等（拠点）を活用しながら、各分野における活動を推進していくこととします。

様々な地域の課題を

健康
福祉

防災

地域環境
美化
緑化

防犯
交通安全

子どもの
健全育成

地域自治の
しくみ

地域自治の強化
広報・財源
人材・組織

と

地域活動の
しかけ

地域の
活性化・交流

と

地域の
拠点

地域拠点

を使って
解決し

人と人とのつながりが育む 住みよいまち・ささはら

をめざします

3-2. テーマごとの活動方針と行動計画

1. 健康・福祉

笹原小学校区は、平成 27 年度の伊丹市高齢者実態調査によると、伊丹市内 17 小学校区の中で、高齢者が最も多い校区となっています。また、伊丹市全体の障害者手帳の所持者は、年々増えています。このことは、安全・安心なまちづくりの観点から、笹原小学校区の未来を考えるうえで重要なポイントです。また、福祉の分野では、地域社会を支える法律や制度はもちろん必要ですが、それ以上に「向こう三軒両隣」のご近所づきあいや関係づくりが地域社会を支える上でとても重要になると考えています。

それを踏まえて、健康・福祉の取り組みでは、

- ①健康づくりの拡大
 - ②高齢者や障がい者の集いの場、交流の場づくり
 - ③要支援者の支援、見守り、助け合いのしくみづくり
- の 3 つの方針のもと、行動計画を立てています。

(1) 健康づくりの拡大

「笹原小学校区の住民は元気で医者要らず」といわれるような地域をめざして、高齢者等の健康づくりに向けた取り組みを進めます。

● 健康増進の運動等の継続実施

笹原小学校区では、現在「健康体操」をはじめとした様々な体操が行われています。

しかし、笹原公園でのラジオ体操等、活動が行われていることを知らない人や、知っていても、いつどこで行われているのかわからないという人が少なからずいます。

そこで、現在実施されているラジオ体操等の場所や時間等の情報を組み込んだ一覧表を作成し、周知を図り、一人でも多くの方が参加しやすいようにします。

● 健康に関する講座の継続実施、充実

毎年、実施している「健康講座」について、近畿中央病院と連携し、認知症、医学知識等の健康に関する講座の継続開催と内容の充実を図ります。



▲近畿中央病院での「健康講座」

● 公園の健康遊具の充実とその活用

校区内にある公園の健康遊具をさらに充実するよう市と調整し、より住民が利用しやすいよう公園マップを作成する等して、住民が手軽に体を動かせる機会の増加を進めます。

(2) 高齢者や障がい者の集いの場、交流の場づくり

ひとり暮らし高齢者や障がい者の参加促進に向け、集いの場、交流の場づくりを行います。これらの取り組みについては、情報の発信が大きな課題の一つであるため、検討を重ねていきます。

● 既存のサロン等の充実、参加促進

現在いくつかの共同利用施設等でサロンが開催されています。各サロンが一様に抱えている問題の一つは、ひとり暮らし高齢者の数が増えているにもかかわらず、参加者が増えていないことです。こうしたサロンの充実を図り継続性を保つために、自治会やボランティアの協力を呼びかけます。また、場を提供する人とその場に参加して来られる人との相互理解を促します。

【地域ふれ愛福祉サロン】

地域ふれ愛福祉サロン（サロンと呼ぶ）とは、ひとり暮らしや家の中で過ごしがちな高齢者、障がい者のある人、子育て中の親子等と、地域住民（ボランティア等）が、自宅から歩いて行ける場所に気軽に集い、ふれあいを通じて生きがいづくり・仲間づくりの輪を広げる活動です。

● シルバー学習会

サロンという枠にこだわらず、同世代の集いの場として、ラストホールで行われている講座を受講した方が講師を担うシルバー学習会や、気軽に参加できる趣味の集いの場を提供していきます。

【福祉部会・高年者部会の既存の取り組み】

福祉部会では、ふれあいの旅、新年会等の行事を通じて交流の機会をつくっています。

高年者部会では、クリスマス会や七夕祭り等を通じて、高齢者と地域の子どもたちとの交流を図っています。



▲福祉部会 ふれあいの旅

● 昼食会の実施

参加者の自己負担でもよいので、集まる場を設けます。

(3) 要支援者の支援、見守り、助け合いのしくみづくり

● 要支援者に対する見守り活動の拡充

現在見守り活動は、民生委員・児童委員や自治会が実施しています。しかしながら、個人情報問題等により、連携がとりにくいという課題があります。今後、活動を拡充させるた

めに、市と市社会福祉協議会を含めた協力体制の確立と情報共有を進めています。

● ささボラの充実、活性化、PRの強化

「笹原ボランティアセンター（ささボラ）」の利用が伸び悩んでいます。利用者の拡大に向け、今後PRを強化し、より多くの地域住民に利用してもらえるものに、活動を活性化させていきます。

※笹原ボランティアセンター（ささボラ）

笹原ボランティアセンターは、笹原・鈴原地域包括支援センター（ラストホール1階）に相談窓口を置き、地域の高齢者や障がい者等、支援を必要とされる方々の様々な“お困りごと”に対して、登録ボランティアの方々の協力を得て、解決をしようと活動をしています。

● 市の住民サービスの周知拡大

救急情報安心キットや緊急通報システム等、市が提供しているいくつかの住民サービスは、見守り活動の一助になっています。これらのサービスをさらに活かしていくため、市の広報紙だけでなく、コミュニティ笹原協議会としても広くわかりやすい周知の方法を検討、実施します。

※救急情報安心キット

かかりつけ医療機関や持病等、救急時に必要な情報を記入した用紙を専用の容器に入れ、自宅の冷蔵庫に保管し、救急隊等がその情報を活用し、救急時に迅速な救命活動が行えるようにしています。



2. 防災

伊丹市は阪神・淡路大震災での大きな被害や、豪雨による冠水、浸水被害を受けてきましたが、幸いなことに、笹原小学校区はこれまで比較的災害が少ない地域です。

しかしながら、今後 30 年以内の発生確率が 70%とされる南海トラフ巨大地震やゲリラ豪雨等の自然災害の発生等『緊急時、災害時に対する地域での備え』を、しっかりとしておかなければなりません。

「自分の命は自分で守る」「自分たちの地域は自分たちで守る」という考えのもと、一番小さなコミュニティである「向こう三軒両隣」での日頃からの「声かけ」、「助け合い」を核として、「自治会単位」に広げ、さらに「笹原小学校区単位」へと、人と人とのつながりの輪を広げていくことが、地域の安全・安心につながると考えています。一人ひとり、あるいは家族で自治会等の活動や行事に参加し、地域交流・多世代交流を深めていくことが大切であり、そのこと自体が災害に対する備えそのものとなります。

そこで、防災の取り組みでは、次の 3 点の方針を掲げています。

- ①緊急時、災害時に対する地域での備えの充実
- ②防災訓練の実施
- ③緊急時に備えた体制づくり

(1) 緊急時、災害時に対する地域での備えの充実

- 高齢者や障がい者等、災害時要援護者の把握と日頃からのお互いの声かけ
- 自治会、各家庭での「非常用持ち出し品」等の備蓄啓発
- 地域交流や多世代交流を深めるための行事の実施
- 防災に関する出前講座の活用（隣近所の協力関係づくり）
- 共同利用施設等への AED 等の設置、AED を使用した救急講習会の実施
- AED の設置場所等を含めた地域防災マップの作成

災害時の避難所への経路や危険箇所、AED の設置場所等を地域の住民で共有しておけるよう、地域防災マップを作成します。

- 各種情報を把握し、地域へ伝達（周知と共有）するためのシステムづくり

(2) 防災訓練の実施

- 自主防災合同訓練への参加促進

防災では、多くの人、多世代の人に身近に感じてもらい、いざという時に役立つ訓練を継続して実施していくことが大切です。また、訓練に参加し体験することが防災意識の向上に大きくつながります。



▲笹原小学校での自主防災訓練

そこで、現在笹原小学校で市と協働して実施している自主防災訓練を、隔年で笹原公園でも実施するように調整し、多くの住民の訓練への参加を促進します。

- 避難訓練の実施（市の実施する事業の活用、応急手当の技能習得等）
- 自治会単位の小規模訓練の実施（「向こう三軒両隣」での協力、グループ内での共助）

（３）緊急時に備えた体制づくり

- コミュニティ笹原協議会の防災体制づくり

課題となっていることは、コミュニティ笹原協議会に緊急時にも対応できる「部会」が設置されていないことです。平常時は現在の担当部会である総務部会で対応できますが、緊急時には支障をきたすことになりかねません。そこで、防災部会の設置や、人材の確保、そのための情報発信の方法等を検討するとともに、市との協力体制をより強化していきます。

- 市の防災情報の周知、活用

市が作成する防災マップの周知や、MCA無線等の活用に向けて検討します。

- 尼崎市と連携した避難計画の検討

笹原小学校区は三方で尼崎市と接しているため、いざという時には行政区域ではなく、隣に住む住民として助け合いが必要になると考えられます。そこで、尼崎市と連携した避難計画について、地域と伊丹市、尼崎市の協力のもと中期的に検討します。

3. 地域環境・美化・緑化

笹原小学校区は、自然豊かな田畑、街路樹、桜並木、管理が行き届いた笹原公園をはじめ、多くの緑地、公園や歴史が感じられる社寺、蔵造り等が存在し、静かな環境が保たれた地域です。こうした住みよい環境を保全、整備し、さらに魅力ある地域として住みやすい環境を整えるため、清掃・美化活動の推進や自然や生き物との共存、住環境の整備等が地域住民の皆様から求められています。

笹原小学校区では、コミュニティ笹原協議会の専門部会として、各自治会において選任された保健衛生推進委員により「生活環境部会」を組織し、保健衛生・生活環境に関する事項について各自治会と連携を図り「保健衛生・環境美化の向上」を促進するため行政、関係団体と一体となり「健康で明るいまちづくり」に向けた活動を推進しています。

今後も現在取り組んでいる自治会諸活動の充実に新たな活動を加え、次の5つに取り組んでいきます。

- ①清掃・美化活動
- ②ごみ分別・減量・散乱防止への取り組み
- ③美化意識向上に向けた取り組み
- ④自然や生き物との共存
- ⑤住環境の整備・保全に対する取り組み

(1) 清掃・美化活動

● 市内一斉清掃の継続実施

年1回の市内一斉清掃を継続実施します。また、時期、場所等地域の実情に沿った活動とし、効率的に実施できるよう、市と連携し、実効性のある方策を検討し、実施します。

※ 市内一斉清掃

毎年7月の第2日曜日に市、各自治会、周辺企業等と連携して、校区内の一斉清掃を実施しています。



● 各自治会の清掃活動の継続実施、子どもや子育て世代の参加促進

各地区にある公園、児童遊園地の清掃を継続して実施します。地域の子ども会、学校等との連携を通じて、地域内での世代間交流や、子ども、子育て世代の参加促進、地域美化・清掃意識の啓発を図ります。

また、季節に応じて「焼き芋大会」等の行事やゲーム形式での清掃活動を取り入れる等子どもが楽しめる企画等についても検討します。

- **安全・安心見守りカメラ設置によるポイ捨ての抑止（関係部会との連携、相談）**

市による安全・安心見守りカメラの設置に伴い「ごみの不法投棄・ポイ捨て」の抑止、啓発にもつなげられるよう、設置場所等を検討します。

（２）ごみ分別・減量・散乱防止への取り組み

- **家庭でのごみ分別・減量活動の啓発、既存の集団回収の継続実施**

学校・家庭・地域と連携しながら、家庭でのごみ減量への取り組みを啓発します。食べることができるにもかかわらず捨てられてしまう食品「食品ロス」等、環境に関する知識を家庭にも発信し、生ごみの減量や資源リサイクル、家庭ごみの分別の徹底を進めていきます。

また、既に自治会等で実施している集団回収（廃品回収等）の促進に向けて呼びかけを行います。

- **家庭用生ごみ処理機の設置促進**

生ごみや落ち葉等をたい肥化する家庭用生ごみ処理機の設置の推進、助成制度の普及に向けて、普及の方法等を検討します。

- **高齢者のごみ出し負担の軽減**

「向こう三軒両隣」の関係を構築し、高齢者世帯への声かけ等、自治会、班、組単位での取り組みを検討します。また、「ささボラ」とも連携しながら、ごみ出し負担の軽減に向けた対策を検討します。

- **フリーマーケット等の実施による不用品の交換、リサイクルの推進**

家庭で不用となった衣類、小物等のリサイクルを推進するため、関係団体とも連携を図り、バザーやフリーマーケット等の開催を検討します。

- **ごみの散乱防止に向けた取り組み**

カラス、動物によるごみ散乱防止の取り組みについて、市はごみステーションのカラス対策を実施し散乱防止策を啓発しています。生活環境部会でも、ごみ出しのマナーの徹底とネットの比較検討、より効果の高いボックス型ごみステーション等の導入に関して助成制度の導入等を検討します。

（３）美化意識向上に向けた取り組み

- **既存の講習会、研修会、環境学習の継続**

生活環境部会で実施している既存のごみ減量・分別に関する講習会や関係施設の見学会、体験学習等を継続実施します。また、市の出前講座の利用を促進し、共通の認識の下で環境学習活動を継続して実施できるようにします。

【生活環境部会の主催する勉強会、現地研修会】

生活環境部会では、美化意識向上に向けた勉強会や現地研修会（見学会）等を実施しています。

平成 27 年度は、ごみの分別・減量、カラス対策等についての勉強会や伊丹市千僧浄水場、豊中市伊丹市クリーンランドでの現地研修会を実施しました。



▲豊中市伊丹市クリーンランドでの
現地研修会

（４）自然や生き物との共存

● 緑化活動の継続（コミュニティ花壇の維持管理）

自治会等によるコミュニティ花壇の管理等、地域の緑化活動を継続します。

● 笹原公園での緑化活動の周知、拡大実施

笹原公園運営委員会を中心にした緑化活動である「街中花いっぱい運動」や「バタフライガーデン」の周知を支援します。また、長期的な視点で、地域内の空き地等を利用した活動の拡大を呼びかけます。

● 街路樹の整備

街路樹、桜並木等の管理、整備について、地域住民、自治会からの剪定、清掃等の意見を取りまとめ市に提言、要望します。

● 地域猫活動、糞の始末の見廻り等

増加する地域の野良猫や、それに伴う糞尿等による環境の悪化への対策として、まずは市内外の地域猫活動を実施する団体の視察、実態の把握に努め、情報の提供活動を通じて地域住民の活動への理解を深めます。

（５）住環境の整備・保全に対する取り組み

● マンションの高さ制限等への対策の検討

住環境の悪化等にもつながり得る、マンション建設等、地域再開発に関して、地域住民、自治会からの意見を取りまとめ、現状や課題の把握に努めます。

4. 防犯・交通安全

犯罪被害は、何の前ぶれも無く、いきなり起こるものです。登下校中の小・中学生を狙った犯罪、ひったくり、空き巣、詐欺等によって、誰もが犯罪の被害者になる可能性をもっています。自分自身で犯罪等から身を守ることはもちろんですが、近隣や地域住民の方々の理解と協力により、犯罪から身を守ることができます。

また、入り組んだ道が多く、自転車等の通行量の多い笹原小学校区では、少しの気の緩みが交通事故につながります。車、自転車、歩行者が互いに交通ルールを守り、行動すれば交通事故を防ぐことができます。

地域一体となって、

- ①子どもの安全確保
- ②犯罪の抑止
- ③交通安全の推進
- ④道路等の整備
- ⑤防犯、交通安全活動の体制づくりに取り組みます。



(1) 子どもの安全確保

● 登下校時のパトロールの実施

登下校の時間帯の散歩を呼びかけ、ウォーキング、犬の散歩時等に「パトロール中」と書かれた犬のリード、腕章やジャンパー等を身につけてのパトロールを実施します。また、交差点等での見守り活動の充実を図ります。

● 警察との連携（取り締まり、パトロールの協力依頼）

● 子ども 110 番協力先の周知拡大

● 各家庭での子どもの安全確保の取り組み啓発

各家庭に、防犯ブザーの所持を呼びかけます。また、スマートフォンの普及により子どもが犯罪被害に遭わないように、正しい利用方法や知識を十分に教育するよう、啓発活動を進めます。

● 安全・安心見守りカメラの位置情報通知サービスを活用した見守りの推進

今後、笹原小学校区に 50 台の安全・安心見守りカメラが設置されます。それと同時に位置情報機能も取り付けられるので、位置情報通知サービス（まちなかミマモルメ）を活用した見守りを推進します。

(2) 犯罪の抑止

● 高齢者をターゲットとした犯罪の防止に向けた、「向こう三軒両隣」の関係強化

振り込め詐欺をはじめとした高齢者をターゲットにした犯罪の防止に向けた、「向こう三軒両隣」の関係強化に努めます。

- **各家庭への犯罪抑止への取り組み啓発**

各家庭に門灯をつけてもらうよう呼びかけ、地域を明るくすることで犯罪抑止につなげる等、各家庭でできる犯罪抑止の取り組みを周知、啓発します。

- **安全・安心見守りカメラの設置場所検討**

安全・安心見守りカメラの設置、設置に関する周知拡大により、犯罪の抑止につなげます。

- **空き家・空き地対策**

高齢化の進展に伴い、地域内においても空き家が増加しています。空き家の増加は、地域の防犯、防火上の大きな問題であり、対策が必要ですが、法的な面等で活用においても多くの課題があることから、中長期的に検討していく必要があります。まずは、空き家・空き地の状況を把握し、地域住民の要望、苦情等を取りまとめることや、福祉やイベントの拠点としての活用等を検討します。

(3) 交通安全の推進

- **路上での自転車等への交通安全指導**

警察等と連携し、交差点等で自転車等への交通安全指導の実施を検討します。

- **学校での子ども向け自転車交通安全教室の開催**

教育委員会の依頼により、警察が学校で自転車交通安全教室を実施しています。今後、学校と連携し、そうした講習の回数の増加等を検討し、子どもの交通ルールに対する意識の向上を図ります。

- **大人のための自転車交通安全教室の開催**

現状として、子どもの前での大人の交通マナーが悪いという課題があります。特に、歩行者や自転車の信号無視、スマートフォンをしながらの歩行や自転車走行等、マナーを守らないことから、交通事故が発生しています。そこで、大人のための自転車交通安全教室を開催し、大人の交通ルールの徹底、意識の向上を図ります。

- **自転車保険加入の必要性を周知徹底**

(4) 道路等の整備

- **パトロールによる危険個所の把握**

定期的なパトロールを通じて、危険箇所等を把握し、行政へ連絡調整します。

(5) 防犯、交通安全活動の体制づくり

- **防犯、交通安全活動に取り組む新たな部会の設置**

※「8. 地域自治の強化（広報・財源・人材・組織）」に掲載

5. 地域の活性化・交流

地域の人々が互いに生き活きと交流できる場を持って一体感を得ることは、住み良いまちを形づくっていくための大きな力の1つとなります。

しかし一方で、まちづくりアンケートでは「にぎわい」や「イベント」による活性化への関心は高くありませんでした。

コミュニティ笹原協議会は、これまで笹原まつりの他、もちつき大会、スポーツイベント、健康講座等の催しを行ってきましたが、住民間の親睦には、校区全域的なイベントより、もっと身近な各自治会、各共同利用施設での活動に期待が寄せられていると考えられます。また、この幾分のすれ違いが、従来のイベントにおける内容のマンネリ化や参加者の偏り、運営団体担当者の負担感、違和感にもつながっていると思われます。

これらを踏まえて本ビジョンでは、地域活性化を「住みよいまちを共につくっていく住民間の交流促進と一体感の醸成」とあらためて位置付けた上で、

＜1＞身近な住民間の交流、親睦を促進する様々な活動の支援を推進する

＜2＞校区全域の一体感とコミュニティ笹原協議会の存在を広く住民が共有できる場を、
笹原まつりの改革、充実の中で追及する

の2点を活動の基本方針と設定しました。

住民の皆様によるアンケートの声、意見交換会でのご意見、アイデアも踏まえ、地域住民が広く活性化を実感できるように、次の取り組みを具体化していきます。

- ①各自治会、各共同利用施設での交流、諸活動との連携、支援
- ②様々な人が参画、交流できる場づくり
- ③自主的な活動の促進に向けた体制整備

(1) 各自治会、各共同利用施設での交流、諸活動との連携、支援

各自治会、各共同利用施設では従来から、秋祭り、バス旅行、各種サークル活動等、住民間の交流、親睦につながる様々な活動が行われています。また、笹原公園運営委員会による蝶観察会や環境体験学習、南野地区むぎわら音頭保存会による「せつしゅうひょうごくどく 摂州兵庫功德盆踊（むぎわら音頭）」の継承活動も、それぞれ活発です。

コミュニティ笹原協議会では、こうした様々な自主的活動について、さらなる活性化や相互交流を促進するあり方を追求します。

- 各自治会、各共同利用施設での活動への支援（相互の情報交流や活動交流等）
- 既存の地域のまつりとの連携
- 地域の歴史・伝統を学び、伝える機会づくり

(2) 様々な人が参画・交流できる場づくり

笹原小学校区では現在、笹原まつりが地域住民の多くが参加する地域最大の行事であり、笹原公園が多くの世代が交流する場となっています。これら笹原まつり、および笹原公園の活動（7. 地域拠点に具体記載）を軸とした催しの活性化を進めます。

● 笹原まつりの改革、充実

笹原まつりは、その意義と方針を明確にした上で、

- ・様々な世代の参加者が真に楽しんでリピーターになることを第一の目標に、
- ・企画、運営を活性化させ、交流活動の一部と位置付けて「意志ある人」「できる人」がうまく集まる仕組みを追求し、
- ・結果的に充実したイベントとなって、参加者の中から意志ある人がさらに生まれて企画、運営に加わってくる好循環が実現すること

を中期的な目標として実施します。

【笹原まつり】

毎年、夏休み最初の土曜日に、笹原小学校にて、夏祭りを開催しています。模擬店や盆踊りに、約4,000人も人が訪れ、夏の夕べを楽しんでいます。



● 笹原公園の活用方法の検討

※「7. 地域拠点」に掲載

(3) 自主的な活動の促進に向けた体制整備

効果的、現実的な企画、運営には、広く住民の方の意志、発想、行動力が必要との観点から、これを促進、支援する体制を検討します。

● 広く住民の意志、発想、行動力を活かす体制の検討

6. 子どもの健全育成

笹原小学校区は、市内で3番目に児童・生徒数が多く、どこにいても子どもの声が聞こえるといえるほど、活気のある地域です。しかし、ここ数年児童・生徒数が減少傾向にあり、また、子育ての環境整備に必要な課題が多々あります。

『子どもは地域の宝』『今後の笹原を支えていく人材』との観点から、学校・家庭・地域が一体となって育てていくことを主眼に置き、以下の3つの活動を進めていきます。

- ①登下校時の見守り強化
- ②子どもの遊び場確保、子どもの健康促進
- ③子育て支援の充実

(1) 登下校時の見守り強化

近年、声かけ、つきまとい事案の増加や、交通量の多さから登下校時の危険性が高まっている現状があり、気軽に注意し合い、見守りができる体制づくりが必要となっています。

「気軽に」という関係をつくるためには、顔なじみになって、声を掛けやすい風土づくりが必要であり、現在行われているあいさつ運動（すこやかネット SSS 推進協議会、各校での取り組み）に地域の方も参加していただき、親近感の持てる地域性を醸成します。また、統一した腕章を身につけ、登下校時の自宅前や散歩等によるあいさつ拶運動、見守り活動を展開します。見守り旗当番についても地域全体で考えていきます。

● あいさつ運動強化

(2) 子どもの遊び場確保、子どもの健康促進

笹原小学校区では、子どもがボール遊びできるスペースが少ないため、平成27年度より笹原小学校の校庭開放が、これまで月1回だったのが、毎週火曜日に拡大されました。しかし利用するには、一旦下校しなければいけないことや、自転車での来校及び駐輪が禁止されている等のルールがあるため、利用が少ないのが現状です。また公園では、ゲーム機での遊びが目立ち、走り回っての集団遊び等が少なく、体力不足の子どもが増加しています。

そこで、校庭開放のルールの緩和、体育館開放の拡大による利用促進と遊び場拡充、また、スポーツクラブ21 ささはらの活用による子ども達の健康促進と指導者育成を支援していきます。

● 小学校の校庭開放、体育館の有効活用、スポーツクラブ21 ささはらの連携強化

(3) 子育て支援の充実

体力と共に、学力向上も大きな課題です。高校入試の学区拡大、学習指導要領の改訂、幼・小・中の連携強化、大学入試方法の変更等、子どもたちを取り巻く学習環境も大きく変化しつつあります。

“ささっ子”が、将来、希望する進路に進めるように、学校・家庭・地域が一体となって、学習環境や子育て支援の充実、情報提供や共有化を行っていくことが望まれています。

学習習慣を身につけることや学力向上のため、地域内での教育関係者 OB、OG で協力をいただける方の発掘を念頭に、自治会単位で行なわれている事業の水平展開、市との連携等を視野に取り組みます。

- 「わくわくキッズ」の他の共同利用施設への拡大

安堂寺センターで行われている「わくわくキッズ」が就学前の子どもと保護者同士の交流に非常により取り組みとなっています。他の共同利用施設への拡大をすることで、子育て支援体制の構築を図ります。

※わくわくキッズ

安堂寺センターにて、就学前児童を対象に、子育て中の親子が交流できる場を提供し、地域で子育てを支援しています。

安堂寺町に限らず、南野や野間等から幅広く参加されています。



- 子育て支援や知恵、情報の提供、発信

- 現状の子ども会活動の整理、見直し

子ども会の減少による活動衰退の歯止めとして、組織の見直しや、活動の整理を検討します。

- 地域のコミュニティ・スクールへの参画

地域と学校と家庭の協働によるコミュニティ・スクールへの参画等により、放課後学習、土曜学習の充実につなげていきます。

※コミュニティ・スクール

コミュニティ・スクールは、学校・家庭・地域がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。

7. 地域拠点

笹原小学校区には、公共施設であるラスタホール、笹原公園、そして地域内に4つの共同利用施設が地域活動の拠点としてあります。

なかでも、ラスタホールは、文化学習、図書館、デイサービス、フィットネス施設が集まった生涯学習センターとして、多くの方に利用されています。

また、共同利用施設として、安堂寺センター、あすなろセンター、南野センター、車塚センターの4つの施設があり、サロン、集会、サークル活動等に使われています。

笹原公園は、防災機能を兼ね備え、木々や草花が多く植えられた緑豊かな大規模公園です。高齢者から乳幼児まで幅広い年代の方に利用され、地域住民の認知度も非常に高く、地域にとって重要な憩いの場です。しかし、行事等での利用は少なく、大規模公園としての魅力の活用が課題となっています。

笹原小学校区におけるこのような拠点を今後どのように有効活用できるか、市の計画とも併せて、次の2つを重点に検討していきます。

① 共同利用施設の有効活用

② 笹原公園の活用促進

(1) 共同利用施設の有効活用

短期的には、収容人員の面を考慮しながら、共同利用施設の利用状況等を積極的に情報発信し、利用率を上げるとともに交流の機会を増やしていきます。また、中長期的には、より利用しやすくするために、協力金の見直しや予約方法の簡素化等を検討します。

- 共同利用施設に関する分かりやすい情報発信
- 共同利用施設の活用方法の整理、拡大（協力金の見直し、協力金の表示、予約方法等の簡素化）
- 集まれる場や機会を増やす（三世代交流広場、学習スペースの設置）

(2) 笹原公園の活用促進

花や樹木の研修会、三世代間の学習（研修、情報交換会など）、さくら祭り、盆踊り、ドッグイベント等、公園の活用方法について、実現性の可否等を含め、総合的に検討していきます。

- 笹原公園の活用方法の検討

8. 地域自治の強化（広報・財源・人材・組織）

少子高齢化等の社会情勢の変化、ライフスタイルの変化等に伴い、「向こう三軒両隣」といわれた日本のよき文化が薄らぎ、住民同士のつながりの希薄化や地域活動に関する関心の低下等が大きな課題となっています。

また、自治会加入率の低下、役員の担い手不足等の課題がある一方で、高齢者、子どもの見守り、災害時の対応等、自治会に期待される役割は大きくなっていることから、組織力の強化が急務です。

これらの課題を踏まえて、以下の5つの観点から事業に取り組んでいきます。

- ①情報発信の強化
- ②人材の整理・確保
- ③組織体制の見直し
- ④財源の確保
- ⑤自治会加入促進

(1) 情報発信の強化

各自治会において既存事業の充実を図り、地域住民相互のつながりを深めるとともに、4つの共同利用施設で行われているひとり暮らしの高齢者を対象とした給食サロン、誰もが集える場としての喫茶サロンを始め、各施設で多くの同好会の方々が利用している状況等、自治会長を通じて、掲示板、回覧等を利用し、積極的な情報の発信に努めます。また、将来的にはネットワークによる情報網の構築を図り、迅速な情報提供を行います。

- 自治会案内、加入促進の冊子（プリント）の作成、配布
- 掲示板の増設、場所の周知
- SNS 専属の人材の確保

【コミュニティ笹原協議会の情報発信の取り組み】

コミュニティ笹原協議会では、「広報笹原」やフェイスブックページ（平成27年7月～）を通じて、これまでの活動のようすや今後の活動のお知らせをしています。



▲広報笹原



▲コミュニティ笹原協議会フェイスブックページ

(2) 人材の整理・確保

当地域には各方面で手腕を振るってもらえるような人材が多く存在すると思われます。そのため、各地域の人材の掘り起こしと、どこにどのようなサポートが必要なのかを整理することが必要です。

また、事業の運営は、役員がすべて企画するのではなく、やりたい人が企画して呼びかける方法にすることで、役員の負担の減少につながります。今後は広く活動への参加を呼びかけ、若年層が参加、活動しやすい体制づくりを検討していきます。

- 各地域の人材の掘り起こし（特技や資格保持者等に関わってもらえる組織づくり）
- 校区全体のボランティアニーズの把握と整理
- この指とまれ方式の事業運営
- 行事等の担い手確保

(3) 組織体制の見直し

- コミュニティ笹原協議会の防災体制づくり
※「2. 防災」に掲載
- 防犯活動に取り組む新たな部会の設置
※「4. 防犯・交通安全」に掲載

(4) 財源の確保

現在の活動は、会費及び行政からの助成金等を財源としており、とりわけ市や市社会福祉協議会からの収入がそのほとんどを占めています。そのような中で、市や市社会福祉協議会からの収入は、永久に保障されたものではありませんので、少なくとも現状から減額されることのないよう十分に留意していかなければなりません。将来的には、地域活動をしっかりと維持させていくために、独自財源の発掘、確保も必要になると思われます。

- 地域活動の継続、発展に向けた財源の確保

(5) 自治会加入促進

自治会加入促進用の冊子を始め、今後加入率の増加に向けて検討していきます。

- 自治会案内、加入促進の冊子（プリント）の作成、配布

■テーマ別活動方針と行動計画 一覧

テーマ	活動方針	行動計画	種類	担当	取り組み時期		
					短期 (2年以内)	中期 (2～5年)	長期 (5年以上)
(1) 健康・福祉	① 健康づくりの拡大	・健康増進の運動等の継続実施	既存の継続	検討中			
		・健康に関する講座の継続実施、充実	既存の継続	検討中			
		・公園の健康遊具の充実とその活用	新規	検討中			
	② 高齢者や障がい者の集いの場、交流の場づくり	・昼食会の実施	既存の拡大	検討中			
		・シルバー学習会	新規	検討中			
		・既存のサロン等の充実、参加促進	既存の拡大	検討中			
	③ 要支援者の支援、見守り、助け合いのしくみづくり	・要支援者に対する見守り活動の拡充	既存の継続	検討中			
		・ささボラの充実、活性化、PRの強化	既存の拡大	検討中			
		・市の住民サービスの周知拡大	既存の拡大	民生委員児童委員 自治会、市			
(2) 防災	① 緊急時、災害時に対する地域での備えの充実	・高齢者や障がい者等、災害時要援護者の把握と日頃からのお互いの声かけ	新規	検討中			
		・自治会、各家庭での「非常用持ち出し品」等の備蓄啓発	新規	検討中			
		・地域交流や多世代交流を深めるための行事の実施	既存の継続	検討中			
		・防災に関する出前講座の活用 (隣近所の協力関係づくり)	既存の継続	コミ篋、自治会			
		・共同利用施設等へのAED等の設置、AEDを使用した救急講習会の実施	既存の継続	総務部（または新部会） 市			
		・AEDの設置場所等を含めた地域防災マップの作成	新規	総務部（または新部会） 自治会、市			
		・各種情報を把握し、地域へ伝達（周知と共有）するためのシステムづくり	新規	検討中			
	② 防災訓練の実施	・自主防災合同訓練への参加促進	新規	検討中			
		・避難訓練の実施（市の実施する事業の活用、応急手当の技能習得等）	既存の継続	総務部（または新部会） 自治会			
		・自治会単位の小規模訓練の実施 (「向こう三軒両隣」での協力、グループ内での共助)	新規	総務部（または新部会）			
	③ 緊急時に備えた体制づくり	・コミュニティ笹原協議会の防災体制づくり ※地域自治の強化（広報・財源・人材・組織）にも掲載	新規	コミ篋			
		・市の防災情報の周知、活用	既存の拡大	検討中			
		・尼崎市と連携した避難計画の検討	新規	総務部（または新部会） 市			
(3) 地域環境・美化・緑化	① 清掃・美化活動	・市内一斉清掃の継続実施	既存の継続	生活環境部			
		・各自治会の清掃活動の継続実施、子どもや子育て世代の参加促進	既存の拡大	自治会			
		・安全・安心見守りカメラ設置によるポイ捨ての抑止（関係部会との連携、相談）	既存の継続	生活環境部			
	② ごみの分別・減量・散乱防止への取り組み	・家庭でのごみ分別、減量活動の啓発、既存の集団回収の継続実施	既存の継続	自治会、子ども会			
		・家庭用生ごみ処理機の設置促進	新規	検討中			
		・高齢者のごみ出し負担の軽減	新規	自治会、ささボラ			
		・フリーマーケット等の実施による不用品の交換、リサイクルの推進	新規	検討中			
		・ごみの散乱防止に向けた取り組み	新規	検討中			
		・既存の講習会、研修会、環境学習の継続	既存の継続	生活環境部、自治会 笹原公園運営委員会			
	④ 自然や生き物との共存	・緑化活動の継続 (コミュニティ花壇の維持管理)	既存の継続	自治会、PTA、老人会等			
		・笹原公園での緑化活動の周知、拡大実施	既存の拡大	笹原公園運営委員会			
		・街路樹の整備	新規	生活環境部			
		・地域猫活動、糞の始末の見廻り等	新規	生活環境部			
	⑤ 住環境の整備・保全に対する取り組み	・マンションの高さ制限等への対策の検討	新規	検討中			

(4) 防犯・交通安全	① 子どもの安全確保	・ 登下校時のパトロールの実施	新規	ボランティア、PTA (新部会)			
		・ 警察との連携(取り締まり、パトロールの協力依頼)	既存の継続	(新部会)			
		・ 子ども110番協力先の周知拡大	既存の継続	検討中			
		・ 各家庭での子どもの安全確保の取り組み啓発	新規	学校、(新部会)			
		・ 安全・安心見守りカメラの位置情報通知サービスを活用した見守りの推進	新規	学校、新部会、市			
	② 犯罪の抑止	・ 高齢者をターゲットとした犯罪の防止に向けた、「向こう三軒両隣」の関係強化	新規	自治会			
		・ 各家庭への犯罪抑止への取り組み啓発	新規	検討中			
		・ 安全・安心見守りカメラの設置場所検討	既存の継続	コミ笹			
		・ 空き家・空き地対策	新規	検討中			
	③ 交通安全の推進	・ 路上での自転車等への交通安全指導	新規	検討中			
		・ 学校での子ども向け自転車交通安全教室の開催	既存の拡大	コミ笹、PTA、学校			
		・ 大人のための自転車交通安全教室の開催	既存の拡大	検討中			
		・ 自転車保険加入の必要性を周知徹底	新規	検討中			
	④ 道路等の整備	・ パトロールによる危険個所の把握	既存の継続	PTA、ふれあいの会			
	⑤ 防犯、交通安全活動の体制づくり	・ 防犯、交通安全活動に取り組む新たな部会の設置 ※地域自治の強化(広報・財源・人材・組織)にも掲載	新規	検討中			
(5) 地域の活性化・交流	① 各自治会、各共同利用施設での交流、諸活動への連携、支援	・ 各自治会、各共同利用施設での活動への支援	既存の拡大	コミ笹			
		・ 既存の地域のまつりとの連携	既存の拡大	コミ笹			
		・ 地域の歴史・伝統を学び、伝える機会づくり	新規	コミ笹			
	② 様々な人が参画、交流できる場づくり	・ 笹原まつりの改革、充実	既存の拡大	コミ笹			
		・ 笹原公園の活用方法の検討 ※地域拠点にも掲載	新規	コミ笹			
	③ 自主的な活動の促進に向けた体制整備	・ 広く住民の意志、発想、行動力を活かす体制の検討	新規	コミ笹			
(6) 子どもの健全育成	① 登下校時の見守り強化	・ あいさつ運動強化	既存の継続	PTA、学校			
	② 子どもの遊び場確保、子どもの健康促進	・ 小学校の校庭開放、体育館の有効活用、スポーツクラブ21ささはらの連携強化	既存の拡大	検討中			
	③ 子育て支援の充実	・ 「わくわくキッズ」の他の共同利用施設への拡大	既存の拡大	検討中			
		・ 子育て支援や知恵、情報の提供、発信	新規	検討中			
		・ 現状の子ども会活動の整理、見直し	新規	検討中			
		・ 地域のコミュニティ・スクールへの参画	既存の拡大	検討中			
(7) 地域拠点	① 共同利用施設の有効活用	・ 共同利用施設に関する分かりやすい情報発信	新規	検討中			
		・ 共同利用施設の活用方法の整理、拡大(協力金の見直し、協力金の表示、予約方法等の簡素化)	新規	検討中			
		・ 集まれる場や機会を増やす(三世代交流広場、学習スペースの設置)	既存の拡大	検討中			
	② 笹原公園の活用促進	・ 笹原公園の活用方法検討	既存の拡大	検討中			
(8) 地域自治の強化(広報・財源・人材・組織)	① 情報発信の強化	・ 掲示板の増設、場所の周知	新規	検討中			
		・ SNS専属の人材の確保	新規	検討中			
	② 人材の整理・確保	・ 各地域の人材の掘り起こし(特技や資格保持者等に関わってもらえる組織づくり)	新規	検討中			
		・ 校区全体のボランティアニーズの把握と整理	新規	検討中			
		・ この指とまれ方式の事業運営	新規	コミ笹			
		・ 行事等の担い手確保	新規	検討中			
	③ 組織体制の見直し	・ 防犯活動に取り組む新たな部会の設置 ※防犯・交通安全にも掲載	新規	コミ笹			
		・ コミュニティ笹原協議会での防災体制づくり ※防災に掲載	新規	コミ笹			
	④ 財源の確保	・ 地域活動の継続、発展に向けた財源の確保	新規	検討中			
	⑤ 自治会加入促進	・ 自治会案内、加入促進の冊子(プリント)の作成	新規	検討中			

4. 今後の展望

住民の皆様にお聞きしたアンケートや意見交換会等で議論された行動計画を推進するために、「向こう三軒両隣」の関係づくりから組織力を強化する【しくみ】づくりと地域自治を活性化させる【しかけ】、笹原公園や各共同利用施設等の【拠点】の活用を図ることが、めざす姿に掲げる「人と人とのつながりが育む 住みよいまち・ささはら」をつくるベースとなります。そのため、「笹原まつり」の改革、充実を進めていくなかで、「意志のある人」「できる人」がうまく集まる「しくみ」を追求し、さらに「意志のある人」が関わっていくような好循環を目指して、具体的な検討を進めていきます。合わせて、「地域自治の強化」を進めるべく、情報発信の強化、人材の整理、確保、自治会加入促進等について着実に進めていきます。

各分野の活動については、これまでから笹原公園を中心に活発な取り組みが進められてきた「2. 防災」と「3. 地域環境・美化・緑化」は早期に取り組みを進めます。また、「1. 健康・福祉」については、市や市社会福祉協議会等の関係機関と協議、連携しながら、笹原公園、共同利用施設、ラストホール等の「7. 地域拠点」の活用と合わせて、また、「4. 防犯・交通安全」や「6. 子どもの健全育成」についても、自治会、学校、PTA等の関係団体で協働、連携しながら、それぞれ既存の活動の継続・拡充等できるところから取り組みます。また、毎年総会等で、適宜、事業の進捗状況を確認し、必要に応じてビジョンへの加筆や見直しを行うことで、地域住民の共感のもと、実効性の高いものでありつづけるよう、フォローアップしていきます。

「人と人とのつながり」を大切にすることで、地域の環境維持や課題解決に向けたさまざまなテーマでの活動が、より充実したものになると考えています。

5. 地域ビジョン策定の経過

笹原小学校区の地域ビジョン策定にあたり、平成 27 年 5 月から、毎月の地域ビジョン委員会や、まちづくりアンケート、まちあるき、3 回の意見交換会を実施しました。

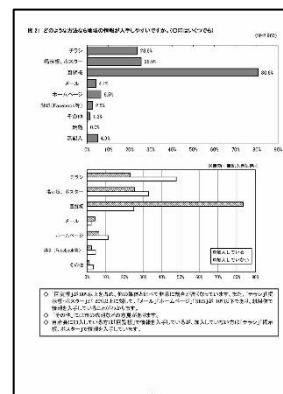
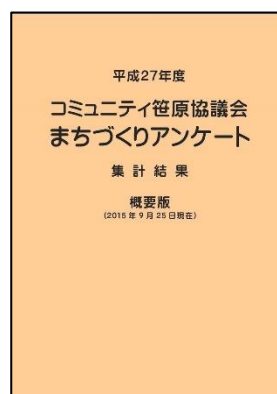
地域ビジョン委員会（平成 27 年 5 月～平成 28 年 2 月 毎月）

月に 1 回定例開催し、まちづくりアンケートの内容の検討やまちあるきに向けたルート検討や模擬ワークショップの実施、意見交換会の企画、振り返り等を行いました。また、それぞれで得た意見をもとに、地域ビジョンの内容を検討しました。



まちづくりアンケートの実施・フェイスブックページの立ち上げ(平成 27 年 6～7 月)

地域の皆様から幅広いご意見をお聞かせいただくために、地域内の全住民を対象に、「コミュニティ笹原協議会まちづくりアンケート」を実施し、回答を集計、分析後、冊子にまとめました。また同時期に、地域ビジョン策定の経過や、コミュニティ笹原協議会の取り組みを情報発信するため、フェイスブックページを立ち上げました。



▲アンケート集計結果の概要版

配布数	回収数	有効回答率
5,904	2,960	50.1%

アンケート結果報告会＆第 1 回意見交換会（平成 27 年 9 月 27 日）

ラストホールで開催され、先に実施されたアンケート結果の報告会とワークショップ形式での意見交換、結果発表、共有が行われ、63 名の地域住民が参加しました。意見交換会では、6 グループにわかれて、現在の地域のよいところと課題、今後の取り組みアイデア等、ふせんを使って出し合い、「健康福祉」「地域環境・美化・緑化」「防犯・防災・交通安全」「地域の活性化・地域交流」「子どもの健全育成」「地域拠点」「地域自治の強化（広報・財源・人材・組織）」「その他」の 8 つにわけて整理しました。



アンケート結果報告会&第1回意見交換会▲
第2回意見交換会チラシ

まちあるき（平成 27 年 10 月 18 日）

笹原小学校校区を歩いてまちの資源や課題を確認するため、「まちあるき」を開催し、74名の地域住民が笹原小学校体育館に集まりました。北、西、東の3コース、各2グループ、合計6つのグループは、各共同利用施設や寺社等で案内係の方の説明を受けながら歩き、「地域の魅力」や、「地域の問題点」、こうなったらいいなという「アイデア」をふせんにメモしました。原則住んでいるところとは違うコースを歩いたため、多くの方が地域の魅力を再発見し、校区全体を知ることができました。まちあるき後は、体育館に戻り、ふせんを地図上に貼り付けてまとめ、グループごとに発表しました。



まちあるきチラシ▲

第2回意見交換会（平成 27 年 11 月 8 日）

地域住民 60 名が笹原小学校体育館に集まり、これまでの意見の振り返りや、地域ビジョンの骨子づくりに向けて意見交換をしました。意見交換会は、「健康・福祉・高齢者・防災」「地域環境・美化・緑化」「防犯・交通安全」「地域の活性化・交流」「子どもの健全育成」の5つのテーマごとのグループにわかれしました。各グループでは、今後地域での活動を担っ

ていく、コミュニティ笹原協議会の専門部会のメンバー等が中心となって、これまでの意見をふまえ、笹原小学校区の将来像とテーマ別の活動方針、行動計画を考えました。



第3回意見交換会（平成 27 年 12 月 13 日）

地域住民 56 名が笹原小学校体育館に集まり、前回の意見交換をもとにできた地域ビジョンの骨子案をもとに、再編、肉付けした地域ビジョン案の作成に向け、意見交換を行いました。各テーマで、課題への対応、体系化、具体化、実現性等の視点から「何を」「いつ」「誰が」「どのように」事業を実施するのかを考えました。



第3回意見交換会チラシ▲

臨時総会（平成 28 年 2 月 20 日）

まちづくりアンケート、意見交換会、まちあるきを通じて得た意見をもとに、地域ビジョン委員会で検討を繰り返し作成した地域ビジョン（案）をお披露目し、地域の皆様のご意見を反映し、内容の承認を得ました。



コミュニティ笹原協議会 地域ビジョン委員会

宮内 正次 (会長)	坂田 勝美 (副会長)
井原 正司 (副会長)	堀 由機 (事務局長)
芳田 麻里 (事務局次長)	富加見 浩美 (事務局次長)
黒見 美智子 (会計)	多田 俊治 (南野自治会長)
加美 宏 (第一中曽根自治会長)	寺垣 恵美子 (山道団地自治会長)
松田 恵子 (長沢自治会長)	古林 正幸 (野間自治会長)
安永 繁美 (東安堂寺自治会長)	吉田 保 (西安堂寺自治会長)
原田 智恵子 (阪急住宅自治会長)	塩井 眞理子 (矢倉町自治会長)
芦原 向司 (中曽根自治会長)	青木 謙一 (佐々原自治会長)
十河 俊晃 (野間東向自治会長)	平瀬 美代子 (車塚北自治会長)
伊藤 恒雄 (車塚南自治会長)	藤田 利雄 (野間南自治会長)
幸木 眞由美 (あぜりあかハイツ自治会長)	竹之内 基 (福祉部長)
荒川 勝博 (青少年部長)	渡瀬 正雄 (高年者部長)
安達 省吾 (生活環境部長)	筒井 良和 (少年補導委員)
樽谷 紘三 (民生委員)	山川 京子 (民生委員)
神谷 政代 (民生委員)	山田 俊幸 (笹原中学校 PTA 会長)
黒藪 孝子 (ささはら幼稚園長)	荻原 良宣 (笹原小学校長)
岡本 光子 (笹原中学校長)	

※これまでの下記取り組み内容の詳細は、伊丹市のホームページにある資料をご参考ください。

- 1) まちづくりアンケート
- 2) 第1回意見交換会
- 3) まちあるき
- 4) 第2回意見交換会
- 5) 第3回意見交換会

伊丹市ホームページ コミュニティ笹原協議会の取り組み→

<http://www.city.itami.lg.jp/SOSIKI/SHIMIN/MACHI/com/model/sasa/>



笹原小学校地区 地域ビジョン

人と人とのつながりが育む 住みよいまち・ささはら

作成・発行 コミュニティ笹原協議会

編集協力 伊丹市まちづくり推進課、街角企画株式会社

発行年月 平成 28 年 2 月（2016 年）

コミュニティ笹原協議会の最新情報はこちらから
【コミュニティ笹原協議会フェイスブックページ】→

